

企業等から福祉現場への人材供給に関する調査研究事業

社会福祉法人 千楽 （報告書 A 4 判 40 頁）

事業目的

福祉人材の不足は依然として大きな社会問題となっている。一方、民間企業等では中高年層の早期退職や希望退職を募る流れが強まっている。本事業では、高年齢者雇用安定法で企業等に課された 70 歳までの雇用確保の努力義務を踏まえ、出向・転職等に関する啓発実験を通して、中高年層に福祉人材として活躍してもらうための課題や可能性について整理・分析を行う。

事業概要

上記の目的に沿って、本事業では以下の事業を実施した。

① 他業種から福祉事業所に転職・出向した者の仕事内容等を紹介する動画を作成した。3 名にインタビューをし、転職のきっかけや福祉の仕事を選んだ理由、現在の仕事内容などを聞き取るとともに、実際の仕事の様子を撮影した。

② 東京・神奈川・京都・福岡の 4 カ所をモデルエリアとして設定し、福祉事業所や企業、産業雇用安定センターなどの協力を得て、他業種から障害者福祉への転職・出向を促すためのセミナーを行った。

③-1 現在福祉以外の分野で働いている人たち向けの冊子を作成した。他業種から福祉事業所に転職した人と現在転職を考えている人を登場人物とし、福祉の仕事の魅力や転職までの流れ等を伝えるストーリーを展開させた。

③-2 転職者や出向者を受け入れる福祉事業所向けの冊子を作成した。令和 5 年度に作成した冊子をもとに、他業種からの転職者を受け入れるメリットや人材を確保するルートなどを紹介する文章を加筆掲載した。

調査研究の過程

上記の 3 つの事業をおこなうにあたり、以下のとおり検討委員会を開催した。

- ・ 第 1 回検討委員会（2024 年 7 月 30 日、2024 年 8 月 14 日）

※委員の都合により 2 日に分けて開催

主な議題：事業趣旨の説明、セミナー実施についての意見交換、人材あっせんの近況についての情報交換

- ・ 第 2 回検討委員会（2024 年 11 月 18 日）

主な議題：冊子作成に関する検討

- ・ 第 3 回検討委員会（2025 年 2 月 14 日）

主な議題：セミナー等の進捗の報告、冊子作成に関する検討

動画作成では、他業種から福祉事業所に転職・出向した者へインタビューを行い、転職・出向の具体例がわかる動画を作成した。なお、撮影にあたっては、調査研究の内容・公開の範囲等について説明文書を用いて説明し、同意が取れた者を対象とした。また、撮影が終わった後でも編集・公開前であれば同意を撤回できるものとし、その旨も説明した。最終的に以下の3名の動画を作成した。カッコ内は前職と現職。

- ①東京都 障害福祉事業所 所長（商社→障害者支援施設）
- ②京都府 障害福祉事業所 職員（家電メーカー→大学事務→障害者支援施設）
- ③千葉県 障害福祉事業所 職員（インナーウェアメーカー→障害者支援施設）

主な聞き取り項目は以下の5つを基本項目として設定した。①～③は動画冒頭に記載した。

- ①氏名
- ②所属先、地域
- ③前職の職種と現職の職種
- ④これまでの経歴、前職での業務内容
- ⑤福祉の仕事を始めたきっかけ、障害者福祉の業界を選んだ経緯

その他、対象者の経緯や職種等に応じて、資格取得のこと、利用者とのふれあい、家族や周囲の反応、やりがい、待遇、他業種からの転職・出向について思うことなどを聞き取った。また、職場での様子を撮影し、適宜事業所の概要等を動画内で示した。対象者②については、所属先の理事長にもインタビューをし、「中高年者の雇用を始めた時期」「中高年の転職者が直接支援を担うことについて」「採用時に重視すること」「企業等からの転職者のもつ力」「企業等から転職を考えている人たちに伝えたいこと」を聞き取って動画の後半に入れた。

セミナー開催については、東京・神奈川・京都・福岡の4カ所をモデルエリアとして設定し、福祉事業所や企業、産業雇用安定センターなどの協力を得て、他業種から障害者福祉への転職・出向を促すためのセミナーをおこなった。対象者は福祉事業所の管理者や人事担当者、福祉業界への転職を考えている人など、広く募った。

セミナーの運営は、社会福祉法人千楽と、各地区の代表者の所属団体および関係団体で協働しておこなった。まずは代表者らとの打ち合わせの機会を設け、社会福祉法人千楽から本事業およびセミナーについて説明した。その上で、セミナーのタイトルや登壇者・内容は、本事業の各地区の代表者らがそれぞれ検討した。記録やアンケートの作成など本事業の実施結果に関わる部分は、社会福祉法人千楽が担当した。また最後に、本年度の成果をふまえた総括セミナーを社会福祉法人千楽主催で東京にて実施した。

冊子の作成については、昨年度の事業にて作成した冊子『福祉の仕事をしてみませんか』および『福祉現場の人手不足をどうするか』を改訂した。

現在福祉以外の分野で働いている人たち向けの冊子である『福祉の仕事をしてみませんか』は、より読みやすく、またより狙いを明確にし、『今から始める人たちを応援する 障害者福祉の仕事 つながり方ハンドブック』として刷新した。ハローワークや産業雇用安定センターに相談に来た人が気軽に読めるよう、他業種から福祉事業所に転職した人と現在転職を考えている人を登場人物とし、福祉の仕事の魅力や転職までの流れ等を伝えるストーリーを展開させた。

転職者や出向者を受け入れる福祉事業所向けの冊子である『福祉現場の人手不足をどうするか』は、昨年度に作成した冊子をもとにしつつ、他業種からの転職者を受け入れるメリットや人材を確保するルートなどを紹介する文章「社会福祉法人等の経営者・人事担当者みなさんへ」を加筆掲載した。

なお、両冊子ともに、実際に転職・出向した人たちのインタビューを昨年度の冊子から転載しているが、女性の事例を入れるため、新たなインタビューを1件おこない、掲載した。

事業結果

本事業で実施した3つの事業の結果は以下のとおりである。

①作成した動画は、まずは限定公開にてYouTubeにアップロードし、次の第3章に記すセミナーにて上映をおこなった。その他、検討委員が講演する際の資料として上映をおこなった場合もある。

動画は3本とも15分前後で上映するのにも適した分量であり、実際の転職事例が具体的にわかることで視聴した人たちからも好評であった。好事例の紹介として広く活用しうるものであることが確認された。

②セミナーでは、参加者の質疑やアンケート回答から、本セミナーによって他業種からの転職・出向について強い関心がもたれ、前向きに検討が進められる可能性がうかがわれた。アンケートからも、当初は他業種からの転職者の受け入れを消極的に考えていた人もいたようだが、特に事例の話や動画を通して参加者が具体的なイメージをもつことができ、このような結果につながったものと思われる。今後も同様のセミナーを全国各地で開催することの有効性が確認できたといえる。産業雇用安定センターについては、福祉の分野ではまだあまり知られていないが、セミナーで話を聞いた福祉事業所の管理者・人事担当者等からは多くの反応があり、アンケートでも「連絡をとり、利用したい」という声があがった。マッチングが成立するかどうかは様々な条件次第ではあるが、人材確保に悩んでいる事業所や、人材紹介会社への支払いが重い負担になっている事業所にとって、救世主ともなりうる存在であることが確認された。

③冊子作成では、『今から始める人たちを応援する 障害者福祉の仕事 つながり方ハンドブック』および『福祉現場の人手不足をどうするか』を発行した。産業雇用安定センターの各地の事務所や社会福祉法人等での閲覧が広まっていくことで、中高年等の再就職先として福祉業界に目が向けられ、また受け入れ側である福祉事業所の体制も整えられることが期待される。さらには、福祉業界に産業雇用安定センターの存在が広く知られ、人材確保のために有効に活用されることも期待できる。

これらの本事業の結果をふまえて、「企業等から福祉現場への人材供給がもたらす効果」および本事業の成果の今後の展開について考察をおこなった。

事業実施機関

社会福祉法人 千楽

〒279-0042 千葉県浦安市東野1丁目7番5号

電話：047-305-1988（代表）